

偶然性の認識とHappen to不定詞

田岡 育恵

情報科学部情報メディア学科

(2009年9月30日受理)

Recognition of Contingency and *Happen to* Infinitives

by

Ikue TAOKA

Department of Media Science, Faculty of Information Science and Technology

(Manuscript received September 30, 2009)

偶然性の認識とHappen to不定詞

田岡 育恵

情報科学部情報メディア学科

(2009年9月30日受理)

Recognition of Contingency and *Happen to* Infinitives

by

Ikue TAOKA

Department of Media Science, Faculty of Information Science and Technology

(Manuscript received September 30, 2009)

Abstract

This paper refers to the nature of contingency and the use of *happen to* infinitives. Contingency has something to do with unexpectedness of a situation that is not recognized in terms of only one event, but the combination of two events. The use of *happen to* infinitives introduces something marked into the discourse. Markedness can be some deviation from general assumption about things, lack of presupposition of acts, counterexamples in the line of reasoning and particularly important, new information that could greatly affect the hearer's world of knowledge. *Happen to* infinitives are markers of unexpectedness in the discourse.

キーワード； 偶然性, 意外性, 有標・無標

Keyword； contingency, unexpectedness, marked/unmarked

1. はじめに

Bohm (1992: 69) は, (1) のように述べ, 我々はたとえ意識してはいないかもしれないが, 常に「必然」と「偶然」の区別をしていると述べている¹⁾.

- (1) The point is that the notion of necessity and contingency is always operating. Everybody is using it all the time without even thinking about doing so; it becomes part of our reflexes.

その「偶然性」の認識は, 一体どのようなされるのだろうか. また, 我々の言語使用にいかん反映されるのだろうか. 本稿では, この問題について英語の偶然を表す表現の1つであるhappenの用例に言及しつつ考えてみる.

2. 偶然とは何か (野内 (2000, 2008))

2.1 偶然と関心

次のやり取りは「偶然」ということについて考える上で興味深い. 日本語の偶然表現の1つである「たまたま」が用いられているのだが, このやり取りは, 話者が事態にとりわけ関心を寄せていることをうかがわせる. 相手は何故「たまたま」などと言うのだと詰問している.

- (2) 「それがたまたまあの日だった, というわけですね」

「たまたま, とはどういう意味ですか. 私にとっては何の意味もない日ですが」

(東野圭吾, 『容疑者Xの献身』)

このやり取りが示唆するのは, とりわけ意識にとめているのではないようなことを「たまたま」とは呼ばない, つまり「偶然」とは認めないということである.

野内 (2008: 231f.) は, 偶然の認識が主観的なも

のだということを, 次のように述べている²⁾.

- (3) 偶然性は主観的な判断によって左右される. 偶然性の認知度は人によって大きな違いがある. たとえばルーレットの例でいえば, その球がどんなにすごい出方をしたとしても金をかけていない人には偶然が偶然とは感じられない. 瓦がたまたま落ちてきて, 下の通行人が死亡するという事故の例でいえば, 犠牲者の近親者ほど偶然を強く意識するはずだ. 偶然意識は出来事の当事者, あるいはそれに近い人ほど強い. 偶然は偶然を利害的に生きる人にとってしか実感されないのだというものである.

この見解によれば, 「偶然」はその事態に対する「関心」を伴うものということになる.

2.2 偶然性と意外性

野内 (2000: 67) は, 「偶然」について更に次のように述べている³⁾.

- (4) たとえばAという出来事とBという出来事が引き続いて起こったり, あるいは同時に起こったとする. その2つの出来事がわれわれとあまり関わりがないとき, その2つの出来事はわれわれの関心を引くこともなく忘れ去られる. 当然のことだ. しかしA-Bの組合せがわれわれに関わりをもち, われわれの関心を引くときがある. そのとき人はA-Bの組合せを「偶然」と呼ぶ.

つまり, 「偶然性」というのは, 「関心」を引く事態というだけでなく, 事態を単独で見た場合に捕らえられるものではなく, AとBという「2つの事態の組み合わせ」において意識されるものだということである.

野内 (2008: 131) は, 偶然の革新的意味は「甲

は甲である」という同一律の必然性を否定する甲と乙との邂逅であり、我々は偶然性を定義して「独立なる二元の邂逅」ということが出来るであろうと言う⁴⁾。

野内は、この考え方を次のような出来事にあてはめて説明する。それは、1人の男が所用のため通りを歩いて、とある家の前を過ぎる。その家の屋根の上では屋根職人が仕事をしているのだが、うっかりして手にしていた瓦を落とす。その瓦がその下を通りかかった男の頭を直撃し、その男は死ぬ。一方に男が家を出て用務先に向かう因果律がある。もう一方に職人が屋根のうえで瓦をふく仕事をしている因果系列がある。この2つの因果系列はおのこの別の因果律に服して展開している。この2つの因果系列の間には何のつながりも接点も存在しない。しかし、ほんらい交差するはずのない2つの因果系列が交差する。だがこの出会い・交差はその端緒においてほんのちょっと時間的に、あるいは空間的にずれただけで成立しなかったのだ、と言うのである。

「偶然」とは、そこに「居合わせる」ことの不思議である。つまり、1つの事態がそれだけで「偶然」と認識されるのではなく、「偶然性」とは、ある事態と別の事態との絡みで認識されるものだということである。

野内（2008：96）は、例外的なものを目撃したときに感じる驚きの情が大きくなると、偶然が本当の意味での偶然ではなくなってしまうとも言っている。これは、2.1節で述べた「関心」につながることだが、野内（2008：147f.）は、仮説的偶然は「AならばBである」という前件（理由）と後件（帰結）の必然的関係が崩れて、予期されたものとは異なる帰結がもたらされることである（AなのにB）と述べている⁵⁾。

つまり、偶然と認識されるためには、当たり前ではない何らかの驚き、意外性が要る。そして、それは2つの事態の組合せで認められる。では、このことをhappen to不定詞で考えてみる。

3. Happen to不定詞の偶然性

3.1 Happen to不定詞の「必然性の欠如」

Coleman（1975：84f.）は、(5a), (6a) のおかしさを happen の意味と語用論的に想定される期待との矛盾から生じると指摘している⁶⁾。

- (5) a. *Queen Elizabeth happened to get a suite of rooms in Buckingham Palace.
b. Annie the Charwoman happened to get a suite of rooms in Buckingham Palace.
(6) a. *Jacques happened to learn French as a child.
b. Irving happened to learn French as a child.

エリザベス女王の部屋がバッキンガム宮殿にあるというのは、当たり前のことであり、そのような当然のことはhappenで表すことは出来ない。また、名前から明らかにフランス人と思われる人がフランス語を習得するのも、当然のことでhappenと矛盾するのである。これに対して、単なるお茶係りのアニーがバッキンガム宮殿に部屋をもらうこと、フランス人ではない人が子供の頃にフランス語を習得することというのは、当たり前の事態ではなく、happen と矛盾しない。ここから、田岡（2007）では、happen to不定詞の根源的意味は必然性を欠く事態を表すものであるとした⁷⁾。

3.2 2つの事態の組み合わせで認められる偶然性

では、happen to不定詞の用例で、野内が述べているような「偶然性」が当てはまるかどうかを見ていこう。

- (7) She also happened to be balancing a small tray with three Starbucks coffees, an overflowing bag of newspapers and magazines, three hangers with complete

outfits dangling from each one, and a duffel monogrammed with the initials “MP.”

(Lauren Weisberger, *The Devil Wears Prada*)

- (8) Why should an unknown person invite them all here just because they happened to stay at a hotel where a young woman committed suicide—just because they had the same initials as that young woman? (Saho Sasagawa, “Invitation from the Sea” in Ellery Queen’s *Japanese Detective Stories*)

(7) の「彼女がコーヒーの載った盆や新聞、雑誌の詰まった袋、服のかかったハンガーなどを運んでいた」というのは、「彼女」にしてみれば仕事の一部で、意図的にしていることであり、それ自体が偶然というわけではないだろう。しかし、語り手(話者)がその場面を見たということは意図しないことであったということで、偶然である。(8)でも、偶然性は「そのホテルに泊まったこと」ではなく、「そのホテルに泊まったこと」と「そのホテルで自殺者が出たこと」との関連において、つまり「そのようなホテルに泊まった」ことにおいて認められるものである。

これらの例で考えれば、happen to不定詞は2つの事態の組合せで認められる偶然を表していると言える。

3.3 Happen to不定詞における意外性

では、今度は偶然性に伴う意外性について考えてみる。「意外性」は何らかの基準からの「逸脱」と取ることができるだろう。

3.3.1 社会通念、決め事からの逸脱

(9a) は、*OED*²で happenの用法の1つとして挙げられているもので、(9b) はその例文である。

- (9) a. Used with carrying degree of intensity to support or imply an assertion

b. *Main Street*, which is always put down as my first book, happen to have been my seventh.

(*Oxford English Dictionary*², s. v. *happen*)

これは、(9a) が示すようにhappenの強調効果を述べたものである。(9b) の例文では、通常、自分の第1作とみなされているものは実は7作目なのだと、一般の想定に反することを持ち出すときにhappenが用いられている。つまり、(10) のようなズレが生じている。

- (10) 通念(第1作) ⇔ 事態(第7作)

同類の例を挙げておこう。(11) – (13) のa, bは、村上春樹『海辺のカフカ』の英訳(*Kafka on the Shore*, Gabriel, Philip (trans.))と該当箇所の原文である(下線は筆者による)。

- (11) a. “Not to frighten you, but a green Miata is one of the hardest vehicles to spot on the highway at night. It has such a low profile, plus the green tends to blend into the darkness. Lorry drivers especially can’t see it from up in their cabs. It can be a risky business, particularly in tunnels. Sports cars really should all be red. Then they’d stand out. That’s why most Ferraris are red. But I happen to like green, even if it makes things more dangerous. Green’s the colour of a forest. Red’s the colour of blood.”

b. 「君を脅かすつもりはないけれど、緑色のロードスターは、夜の高速道路ではもっとも見えにくい車のひとつなんだ。背が低いし色が闇にまぎれてしまう。とくにトレーラーの運転席からは見えにくい。気をつけないとすごく危険だ。とくにト

ンネルの中がね. ほんとうは車体の色
赤にするべきなんだよ. そのほうが目立
つ. フェラーリに赤が多いのはそのため
だ」と彼は言う. 「でも僕は緑色が好き
んだ. たとえ危険でも緑がいい. 緑は森
の色だ. そして赤は血の色だ」

(11) では, 「危険性ということから車の色は緑を
避けて赤にすべきであり, 赤が多い」という一般論
から逸脱した「緑の支持」にhappenが用いられて
いる.

(12) 通念 (車体に緑は避ける)

⇕

事態 (車体は緑がいい)

(13) a. Sometimes people would walk by when he
was deep in conversation with a cat, but they
never seemed to care. It wasn't so unusual,
after all, to see old people talking to
animals as if they were people. But if
anyone did happen to comment on his
abilities with cats and say something
like, "Mr. Nakata, how are you able to know
cats' habits so well? It's almost like you
can converse with them," he'd just smile
and let it pass.

b. 彼が道ばたでどこかの猫と熱心に会話し
ているときに, 人がたまたまそばを通り
かかることはあったけれど, それを見て
も, 誰も別に気にはとめなかった. 老人
が動物に向かって, 人に対するように語
りかけているのは, とくに珍しい情景で
はない. だからみんなに「ナカタさんっ
てどうしてそんなに猫の習性や考え方が
よくわかるのかしら. まるで猫ちゃん
とお話できるみたいね」と感心されても,
何も言わずににこにここと笑っているだけ

だった.

(13) は, 「老人が猫と話していても誰も気に留め
ない」のが普通なのに, わざわざ声をかけるという,
あまりない状況を表すのにhappenが用いられてい
る.

(14) 通念 (老人が猫と話していても無視する)

⇕

事態 (老人にそのことで声をかける)

(15) a. "Chunichi Dragons fans I always call
Hoshino. Nagashima's your basic Giants
names.—likewise, for the Dragons,
it's got to be Hoshino, right?" "Yeah, but
Hoshino happens to be my real name."

b. 「わしは中日ドラゴンズのファンにはいつ
もホシノちゃんと呼びかけることにして
いる. たとえ何があろうと, 巨人といえ
ばナガシマ, 中日といえどホシノじゃな
いか」「でもさ, おじさん, 俺の本名はた
またまホシノっていうんだ」

(15) は, 一般論ではないが, 「ホシノと呼ぶの
は中日ファン」という相手の決め事に対して, 自
分の場合は本名がホシノだという異例を示すときに
happenが用いられている.

(16) 決め事 (中日ファンをホシノと呼ぶ)

⇕

事態 (本名がホシノ)

(11), (13) においては, 原文の日本語では偶
然を表す表現がないことも注目に値する. 訳者が
原文に対応する表現がないところを読み込んで,
happenが用いられているのである.

次の例は, happenの有標性を理解する上で好例
だと思われるものである.

- (17) She was a lonely woman with a lover who happened to be a few years younger than she was, which was none of their business.

(Danielle Steel, *Impossible*)

(17) では、「年下の男性が恋人である」というところにhappenが用いられている。段々、社会状況は変わってきて、年下の男性と付き合う女性が増えてきているとは言え、男女で女性が年上であることは、まだどちらかと言えば有標である。「男性が年下の女性と付き合っている」のなら当たり前のことであり、happenは用いられないだろう。これも、社会通念からの逸脱である。

- (18) 通念 (男性は年上) ⇔ 事態 (男性が年下)

(19) では、「自分の担当以外の地区はよく分からないものだ」という一般論と「以前にそこの仕事をしたことがある」という個別のケース、これが偶然、重なった場合は、この一般論は当てはまりませんよ、ということで、その特殊ケースを表すのに happen が用いられている。

- (19) But what an officer will know of his colleagues' districts compared with his own will tend to be particularistic—of salient pollution problems—set in the context of an undetailed and generalized apprehension of the kind of patch a colleague looks after. In other respects a field officer will not claim familiarity with another district unless he happens to have worked it himself in the past.

(BNC:FA1)

- (20) 通念 (自分の担当以外、分からない)

⇕

事態 (以前、担当したことがある)

(21) は、括弧内のthere usually weren'tが示すように、そのような召使はめったにいないというのが一般的想定であり、それが外れた場合をhappen to不定詞は表している。

- (21) She looked after elderly parents, accepted the care of young children, nursed the sickly, cooked divinely, got on well with any old crusted servants there might happen to be (there usually weren't), was tactful with impossible people, soothed habitual drunkards, was wonderful with dogs
(Agatha Christie, *What Mrs. McGillicuddy Saw!*)

- (22) 通念 (偏屈な召使はいない)

⇕

事態 (偏屈な召使がいる)

この節で見た意外性は、(23) のように捕らえられる。

- (23) 社会通念, 決め事⇔事態 (逸脱)

3.3.2 行為の前提を否定

3.3.2.1 言い訳に用いられるhappen to不定詞

(24) の各例は、「(人のメールを) 偶然、見てしまった」→「見るつもりはなかった」, 「(所有が禁じられている) 空飛ぶ車を偶然、見つけた」→「見つけようとしていたのではない」と、してしまった行為の意図を否定しているものと取れる。つまり、happenが言い訳に用いられている。

- (24) a. I'm sorry. I just happened to see it. Your letter was on the screen.

(Danielle Steel, *Answered Prayers*)

b. He told Dumbledore everything except that Mr. Weasley owned the bewitched car, making it sound as though he

and Ron had happened to find a flying car parked outside the station. (J. K. Rowling, *Harry Potter and the Chamber of the Secrets*)

行為にはデフォルト的にそれをしようとする意図が前提にされるが、それがここでは欠落していることになる。この前提の欠落が、その行為に対する通常の想定からの逸脱になる。

(25) 通常の想定 (それをしようと思っていた)

⇕

事態 (それをする意図はなかった)

3.3.2.2 依頼に用いられるhappen to不定詞

(26) のように、相手に何か聞いたり頼んだりする場合にhappenが用いられることは多いが、その場合「相手がそれを知っている、それをする事になっている」という前提をhappenにより否定している。そのため、依頼の押し付けがましきの度合いは減る。

(26) a. Do you, uh, happen to remember the name of the restaurant?

(Lauren Weisberger, op.cit.)

b. Did you happen to pick up those things I asked you to get?⁸⁾

依頼にはデフォルト的に「相手がそれをすべきだ」という考えが前提にされるが、それがここでは欠落している。

(27) 通常の想定 (相手がすべきだと思っている)

⇕

事態 (相手がすべきだとは思っていない)

3.3.2.3 勧誘に用いられるhappen to不定詞

(28) の各例は、「相手をコンサートに誘う」、「寄っ

てもよいかと誘う」、その誘いの前提になる「チケットが手に入った」、「近くまで来ている」の部分にhappen to不定詞を用いている。

(28) a. I happen to have two tickets for the opening of a revival of Noël Cowards' *Blithe Spirit* tomorrow night, and I have no one to go with. If you're free—?

(Sidney Sheldon, *Are You Afraid of the Dark?*)

b. My assistants and I happen to be near your headquarters, and I wonder it would be convenient for you if we dropped in for a visit. (ibid.)

人を誘うときは、デフォルト的に誘った側はその実現に向けて準備するという想定があるが、ここではその想定が外れている。

(29) 通常の想定 (相手は計画していた)

⇕

事態 (計画していなかった)

3.3.2節で見た意外性は、(30) のように捕らえられる。

(30) 行為の前提⇔事態 (逸脱)

3.3.3 思考の流れにおける逸脱

(31) She was one of the firm's best lawyers. She went to Harvard as an undergraduate and then on to Yale Law School. She happened to be African American and Olympia wasn't anxious to explain her problems to her, but after circling the subject cautiously for five minutes, she finally spelled it out to her.

(Danielle Steel, *Coming Out*)

(31) は、「彼女がアフリカ系アメリカ人である」

というところにhappenが用いられている。状況説明をすれば、(31)においてオリンピアが相談しようかどうか逡巡している問題とは、ユダヤ人の夫とその身内のことである。相談を持ちかけようとしている相手もアフリカ系アメリカ人で、人種問題で抵触する恐れがある。そのことが、オリンピアが迷う原因になっている。相手は職場きっての優秀な弁護士でハーバードとエールを出ている。その識見は十分信頼に値するもので相談したいと考える中で、アフリカ系アメリカ人であることが、1つの引っかかりとして出てくるのである。

(32) 思考の方向（相談者としての適切性）



事態（相談者としての不適切性）

(33) 思考の流れ⇔事態（逸脱）

3.3節で見てきた意外性とは、社会通念、決め事から見て逸脱している場合、行為の前提として考えられることが欠落している場合、あるいは、先行する思考の流れと合わないという場合であった。つまり、何らかの先行認識が想起され、そこから何らかの意味で逸脱している。これに対し、次の3.4節で見ていくのは、happen to不定詞が導入する事態に対応する先行認識が考えられない場合である。

3.4 聞き手の知識世界にない事態

(34) “What’s all the fuss about the twentieth, anyway? What’s special about the twentieth?”
“It happens to be the day that we believe the murder was committed.”

(Agatha Christie, op. cit.)

(34) では、「それは殺人が起った日だ」というところにhappen to不定詞が用いられている。ここでは、まったくの新情報が文脈に導入されるのであって、照らし合わせるべき先行認識が存在しない。

先行認識が存在するかしないかということについて

では、たとえば、(9b) と比べると、(9b) ではメインストリートについて付随するいくつかの情報が考えられ、その中に「ふつう第1作と思われること」もある。これが先行認識である。(11) は「車体の色」、(13) は「猫に話しかける老人」、(15) は「ホシノと呼ばれる人」、(17) は「恋人の男性の年齢」、(19) は「自分の担当以外の部署」、(21) は「偏屈な召使」、これらについて、それぞれ先行認識が想起される。(24)、(26)、(28) の例では、それぞれの行為について然るべき前提が想起される。これに対し、(34) の場合は、「20日について、何がどうだと言うのだ」と言っているように、20日について想起されることが漠然としている。

(35) 想定（その日については白紙、先行認識がない）



事態（その日に殺人が起こった）

(36) も同類である。(36) のように、辞書に相手の言動に異議申し立てをする際にhappenが用いられるという指摘が見られる。

(36) a. ((spoken) used for expressing an opinion firmly, because you are angry) *I happen to live here too—don’t leave your rubbish everywhere!* (Macmillan English Dictionary for Advanced Learners of American English², s. v. happen)

b. (used to show annoyance or to give force to a statement) *I happen to like her, so don’t be so rude about her./ That happens to be my car you’re leaning on.* (Longman Dictionary of English Language and Culture, s. v. happen)

c. (used to tell sb sth, especially when you are disagreeing with them or annoyed by what they have said) *That happens to be my mother you’re talking about!* (Oxford

*Advanced Learner's Dictionary*⁷, s. v. *happen*)

(36) のそれぞれの例文を見れば、「私はここに住んでいる。だからゴミを撒き散らすな」、「私は彼女が好きなんだ。だから彼女のことで失礼なことをするな」、「君がもたれているのは私の車だ」、「君たちが話しているのは私の母のことだ」となっている。

これらは新情報である。そこに住んでいると分かっている相手もゴミを撒き散らさなかつたろうし、彼女に好意を持っていると知っていたら彼女に失礼なことをすることはなかつただろう。相手の車だと知っていればもたれかかることもなかつただろうし、母親のうわさをすることもなかつたのである。これらは想定外の事態であり、対応する先行認識もない。

(37) a. 先行認識 (私について白紙)

⇕

事態 (私はここに住んでいる)

b. 先行認識 (私について白紙)

⇕

事態 (私は彼女が好きだ)

c. 先行認識 (もたれている車について白紙)

⇕

事態 (その車は私の車だ)

d. 先行認識 (うわさしている女性について白紙)

⇕

事態 (その女性は私の母だ)

では、先行認識を欠く新情報の場合はすべて「意外」ということになるのかといえ、そうとは言えない。

たとえば、新情報で構成されると考えられる自己紹介の場合を考えてみればよい。

(38) a. I am a Japanese.

b. I live in Osaka.

c. I like red.

自己紹介の場合、(38) の各例のようにhappenを用いないのが普通であり、ここにhappen to不定詞を用いてI happen to be a Japanese, I happen to live in Osaka, I happen to like redとしたら、その場合は何らかの先行認識が必要と感ぜられる。たとえば、先に自己紹介した誰かが「自分は大阪に住んでいる」と言っていて、自分もそうなのだという場合や「日本」が既に話題に出ていて、「実は自分は日本人だ」と言う場合のように、先行認識との関連で述べる場合なら考えられるだろう。

では、(34)、(36) の例では何故、先行認識がないのにhappen to不定詞が用いられ得るのか。それは、これらが聞き捨てならぬ重要な情報を伝えているということが大きい。(34) は、尋常ならぬ「殺人」が関係している。(36) の各例は、単に「ここに住んでいる」、「彼女が好きだ」、「それは私の車だ」、「それは私の母のことだ」と言っているのではなく、相手の迷惑な、不快な行為を止めさせるために発せられた言葉である。(34)、(36) は、「君らは知らないだろうけれど、こんなことになっているのだ」と、相手に事実を知らしめる働きをしている。つまり、情報として相手にハッとさせるような内容が来ているのである。

野内は、偶然性は関心と呼ぶ事態にしか認められないと述べていたが、これらの場合、それまでの相手の認識世界を変えるような、重要な新情報が表されていると言えよう。

田岡 (2007) では、happen to不定詞の意味を「必然性の欠如」としたが、それだけでは足りず、「意外性」が加えられなければならないと考える⁹⁾。

4. おわりに

happen to不定詞の表す偶然性は、単独の事態ではなく事態の組み合わせで生じる。その意外性は、社会通念や決め事からの逸脱、行為の前提の否定、思考の流れからの逸脱、聞き捨てならぬ新情報という要因から来る。happen to不定詞は、談話における意外性の導入マーカーなのである。

参考文献

- 1) Bohm, David; *Thought as a System*, London and New York: Routledge, (1992) .
- 2) 野内良三;『偶然を生きる思想―「日本の情」と「西洋」の理』, NHKブックス, 東京:日本放送出版協会, (2008).
- 3) 野内良三;『レトリックと認識』 NHKブックス, 東京:日本放送出版協会, (2000).
- 4) 上掲書 2)
- 5) 上掲書 2)
- 6) Coleman, Linda; “The Case of the Vanishing Presupposition,” *Proceedings of the Annual Meeting of the Berkeley Linguistic Society* 1, pp.78-89, (1975).
- 7) 田岡育恵;『英語表現の形式における矛盾と伝達効果』, 東京:英宝社, (2007).
- 8) 上掲書 6)
- 9) 上掲書 7)